

第1学年東組 図画工作科学習指導案

「世界に一つ 自分だけの箱 ～たいせつボックス～」

学習指導者 平井 千春 ・ 支援員 内田 珠世

1 学級（32名）の実態

（1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果によると、「図画工作科の授業で、前よりもイメージに合うようになったところはどこかを考えている」と答えた子供は24名であった。しかし、実際は、完成したことに満足してしまい、イメージに合う作品になったかどうかを形や色といった造形的な視点で振り返る様相はあまり見られない。また、鑑賞が好きな子供は多いが、形や色とイメージをつなげて考えてはおらず、友達と鑑賞し合うことによって造形的な見方・考え方が広がるよさに気付いている子供は少ない。

（2）本題材の学習に関する学級の実態

これまでの図画工作科の授業では、描いたりつくったりしながら表したいことを見付ける子供が多かった。1学期は主にクレヨンやパス、粘土を使って絵や立体に表す活動を行ってきており、好きな形や色を選んで、思い思いに表すことを楽しむ様子が見られた。一方、工作に表す題材の経験は少なく、紙コップを使って簡単な工作に表す題材では、使ったことのある描画材料を好んで使う姿は見られたが、初めから色紙やモールなどの様々な材料を使って装飾する姿は少なかった。

2 本題材で習得を目指す「振り返る」方法

前の時間と比べて、変えたところ（変身ポイント）を見付ける

3 本題材で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿

教師が大切にしている物について聞き、同じように自分が大切にしている物やそれに関するエピソードを表出することで、大切な物への思いを高めた子供たちは、無装飾の箱と教師が装飾した世界に一つしかない箱のモデルを見て、自分だったらどちらの箱に大切な物を入れたいか考えることで、「大切な物を入れる、世界に一つの自分だけの箱（たいせつボックス）をつくろう」という題材の目標を設定する。その目標に向けて、「箱はどんな形にしよう」「どんなイメージの箱にするか考えたいな」「イメージに合う箱にしたいな」などの問題を発見し、課題を設定する。課題を設定した後は、違うイメージで作られた数種類の作品のモデルを見たり、これまでの図画工作科の学習で獲得してきた、「イメージに合う形や色を選ぶ」などといった「くふうめがね」（工夫して表すための手掛かり）を使うとよいという、解決方法の見通しをもつ。

解決場面では、自由に箱や材料に触れて様々な形や色を試したり、友達と交流したりしながら、つくりたいイメージをもったり、イメージに合う箱になるように工夫してつくったりする。また、友達の作品を見たり、友達にアドバイスをもらったりすると自分だけでは見付からなかった形や色の工夫が見付かることや、自分のアドバイスに対して友達に「ありがとう」と言われたりすることで、協働のよさを実感する。

振り返り場面では、前時までの作品の写真と、本時の作品を比べ、よりイメージに合うように変えた「変身ポイント」を見付ける。その際「見て見て。前は桃色だけだったけど、今日は水色や黄色も使ったよ。どう思う」「いいね。折り紙のお花がカラフルでお花畑みたい。かわいい」「ありがとう。〇〇さんの赤いモールのぎざぎざもかっこいいね。どうしてそうなの」「炎みたいで強くてかっこいい箱になると思ったからだよ」「本当だ。炎みたい。黒色を使っているのも強そうでいいね」など、友達と関わりながら、形や色といった造形的な視点で製作活動を振り返り、本時の学びを捉えることを繰り返すことで、他の題材や日常生活でも、造形的な視点に着目しながら製作に取り組む子供の姿を目指す。

4 達成意欲を高める目標共有の工夫 ①時

教師が大切にしている物について話し、子供たちにも同じように大切にしている物はないか問いかけて表出することで、まずは自分たちが大切にしている物への思いを高める。その後、教師がどこに宝物を入れておこうか迷っていることを伝えたり、自分の宝物は何に入れていくかを問いかけたりし、無装飾の箱ときれいに飾った世界に一つだけの箱に入れる様子を見せて、自分の大切な物を入れるならどちらの箱がよいか問いかけることで、「大切な物を入れる世界に一つ自分だけの箱（たいせつボックス）をつくりたい」という思いを高め、題材の目標を設定する。



【無装飾の箱と飾られた箱】

5 題材計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 4/6）

次	題材計画	方法の習得の段階に合わせた手立て
一	<p>① どんな箱にしたいか考えよう</p> <p>「大切な物を入れる世界に一つ自分だけの箱をつくりたい」という思いから、題材の目標を設定し、「どんな箱にしたいか考えよう」という課題をもつ。その後、数種類の作品のモデルを見るなどし、自由に箱や材料を試しながら、「かわいい箱にしたい」などと、つくりたいイメージをもつ。学習支援アプリのカードに大切な物とそのイメージを書き、飾る前の箱の写真を撮っておく。製作に使える時間を知り、次時からの製作活動への見通しをもつ。</p>	<p>【認知段階】</p> <p>③時の製作活動の終わりに作品を撮影し、「前時までの作品と比べて変えたところ（「変身ポイント」）を見付ける」という方法を教示する。その際、「変身ポイント」は、イメージに合うようにつくられたと思うところであることを共有し、みんなで一緒に振り返りを行っている。また、「変身ポイント」を見付けることで、自分が頑張ったことが具体的に分かり、次の製作活動や生活でも生かせるというよさを共有している。</p>
二	<p>②③ 〇〇な箱をつくろう（2時間続き）</p> <p>〇〇（つくりたいイメージ）な箱にするために試したいことを全体で交流し、「くふうめがね」や技の掲示（各材料でできることや、これまでに子供たちがしていた工夫の例）を見て形や色を工夫するとよいという見通しをもって製作活動に取り組む。掲示を見たり、自由に友達と相談したりし、様々な形や色を試しながら工夫してつくる。製作活動の終わりには、今日つくった箱の写真を撮り、飾る前の箱の写真と比べながら、形や色といった造形的な視点でペアの友達と交流し自分のイメージに合うように飾った「変身ポイント」を見付けて、自分の工夫のよさを自覚する。その後、似たイメージの友達とも交流することで、形や色が似たものになっていることに気付き、「自分だけの箱になっていない」「まだしていない技を試して、世界に一つだけの箱にしたい」という思いを高め、イメージを具体的に膨らませて（学習支援アプリに付け加える）、次時の課題を設定する。</p>	<p>【想起段階】</p> <p>「今日頑張ったことを振り返る時、前の時間は何をしたかな」と問いかけ、方法を想起できるようにする。また、方法の手順を掲示したり、方法を使っている友達への注目を促したりすることで、方法を想起しやすくする。</p>
三	<p>④⑤ もっと「世界に一つ自分だけの箱」にしよう</p> <p>前時の学習を振り返り、まだしていない技や「くふうめがね」の項目があったことを思い出して、「世界に一つだけの箱」に近づくために今日したいことを考える。その後、自分のイメージに合う形や色を選び、つくり、つくりかえることを繰り返しながら製作活動に取り組む。④⑤時でも、製作活動の終わりには、友達と交流しながら「変身ポイント」を見付け、製作活動を振り返る。⑤時の終わりには、「みんなに作品をアピールしたい」「友達の作品を見たい」という思いから、次時にお互いの作品を見せ合う活動をするを共有する。</p>	<p>【振り返る方法の手順】</p> <p>① まえのしゃんとくらべる ② 「へんしんポイント」をみつける</p> <p>イメージにあうように つくったりつくりかえたりしたところ</p> <p>↓</p> <p>・きょうがんばったことがわかる ・つぎのさくひんや、ふだんのせいかつにいかせる</p> <p>【掲示する方法の手順】</p>
三	<p>⑥ 友達と作品を見せ合おう</p> <p>変わってきた箱やイメージを表したカードと一緒に作品を展示し、鑑賞する。作品の写真に形や色の視点で色分けしたシールを貼って「イメージに合っている」と感じたポイントを伝える。</p> <p>鑑賞後は、蓄積してきた作品の写真を振り返り、自分や友達の作品がよりイメージに合うように変わったことに気付き、他の題材や日常生活でも、形や色を工夫したいという思いを高める。</p>	<p>【振り返る方法の手順】</p> <p>① まえのしゃんとくらべる ② 「へんしんポイント」をみつける</p> <p>イメージにあうように つくったりつくりかえたりしたところ</p> <p>↓</p> <p>・きょうがんばったことがわかる ・つぎのさくひんや、ふだんのせいかつにいかせる</p> <p>【掲示する方法の手順】</p>

6 本時の学習

目 標	自分の大切な物をしまうための箱をつくる活動を通して、様々な形や色を試しながら、イメージに合う表し方を考え、形や色を工夫して表すことができる。
--------	--

学習活動と手立て	主な子供の意識								
見 通 し	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。</p> <p>前の時間まで、大切な物を入れる「世界に一つの自分だけの箱」をつくっていたよ。</p> <p>形や色を工夫したらイメージに合う箱ができてきたけど、イメージが似ている友達とは、同じような形や色になっていたな。まだ「世界に一つの自分だけの箱」にはなっていないよ。</p> <p style="text-align: center;">もっと「世界に一つの自分だけの箱」にしよう</p>								
	<p>2 工夫してつくるための見通しをもつ。</p> <p>「くふうめがね」や技の掲示を見ると、まだしていないことがあったな。それを試すともっと「世界に一つの自分だけの箱」になりそうだね。</p> <p>前の時間は、桃色を使っていたけど、水色もかわいいな。「お花畑みたいなかわいい箱」になるように、今日は、水色でお花をつくろう。</p> <p>モールを短く切る技はまだ使っていなかったな。その技で花火をつくろうかな。「楽しい夏の夜空の箱」に合いそうだな。</p>								
行 動	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">材料は何にしようかな。材料コーナーで考えよう。水色の折り紙でお花をつくろう。</td> <td style="width: 25%;">見て。前にやった「ちょきちょきかざり」を貼ったよ。レースみたいでしょう。</td> <td style="width: 25%;">好きな赤色でつくろう。豪華な花火にしたいんだけど、どうしたらいいかな。</td> <td style="width: 25%;">赤色だけじゃなくて、オレンジや黄色も使って、ねじねじの技をするのはどう。</td> </tr> <tr> <td>私も水色の折り紙で「ちょきちょきかざり」のお花をつくろう。黄色も重ねてみよう。</td> <td>いいね。私も他の色も使ってやってみよう。お花紙でもできるかな。</td> <td>いいね。色をたくさん使うと豪華な花火にできそう。ありがとう。</td> <td>僕も、もっと「強くてカッコいい箱」にしたいから、まだ使っていない色も試してみよう。</td> </tr> </table>	材料は何にしようかな。材料コーナーで考えよう。水色の折り紙でお花をつくろう。	見て。前にやった「ちょきちょきかざり」を貼ったよ。レースみたいでしょう。	好きな赤色でつくろう。豪華な花火にしたいんだけど、どうしたらいいかな。	赤色だけじゃなくて、オレンジや黄色も使って、ねじねじの技をするのはどう。	私も水色の折り紙で「ちょきちょきかざり」のお花をつくろう。黄色も重ねてみよう。	いいね。私も他の色も使ってやってみよう。お花紙でもできるかな。	いいね。色をたくさん使うと豪華な花火にできそう。ありがとう。	僕も、もっと「強くてカッコいい箱」にしたいから、まだ使っていない色も試してみよう。
	材料は何にしようかな。材料コーナーで考えよう。水色の折り紙でお花をつくろう。	見て。前にやった「ちょきちょきかざり」を貼ったよ。レースみたいでしょう。	好きな赤色でつくろう。豪華な花火にしたいんだけど、どうしたらいいかな。	赤色だけじゃなくて、オレンジや黄色も使って、ねじねじの技をするのはどう。					
私も水色の折り紙で「ちょきちょきかざり」のお花をつくろう。黄色も重ねてみよう。	いいね。私も他の色も使ってやってみよう。お花紙でもできるかな。	いいね。色をたくさん使うと豪華な花火にできそう。ありがとう。	僕も、もっと「強くてカッコいい箱」にしたいから、まだ使っていない色も試してみよう。						
振 り 返 り ・ 見 通 し	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>今日頑張ったことを振り返るには、写真を撮って、前よりもっとイメージに合うようになった「変身ポイント」を見付けるとよかったね。</p> <p>前は桃色を使っていたけど、今日は水色や黄色も使って「ちょきちょきかざり」のお花をつくったよ。どう。</p> <p>前はお花紙だけだったけど、いろいろなお花を増やすと、もっと「自分だけの箱」になると思ったからだよ。</p> <p>いいね。見て。私は、もっと「楽しい夏の夜空の箱」にしたかったから、モールで花火をつくったよ。</p> <p style="text-align: center;">今日頑張ったことがよく分かったよ。次は箱を完成させたいな。</p>								

評 価	イメージに合う箱にするために、様々な形や色を試したり、つくったりつくりかえたりしながらどんな表し方がよいか考え、形や色を工夫して表している。また、前時の作品と比べて、本時にイメージに合うように変えたところを見付けている。 【方法：発言、様相、作品】
--------	---

～見通し～ **学習活動1・2**

「大切な物を入れる、世界に一つの自分だけの箱（たいせつボックス）をつくろう」という題材の目標を再確認するとともに、前時の学習を振り返り、イメージが似ている友達と同じような形や色になっていたことを思い出し、「まだ自分だけの箱になっていない」「もっと世界に一つの自分だけの箱に近づきたい」という思いを確かめ、本時の学習課題を設定する。その後、前時にできたことを全体で共有してチェックを付けた「くふうめがね」や、みんなの工夫の例をまとめた技の掲示を確認することで、課題を達成するためには、まだしていないことを試すとよいという見通しをもてるようにする。さらに、学習支援アプリのカードを見て自分がつくりたい箱のイメージを思い出しながら、ペアの友達と、今日試したい形や色を伝え合い、数名の考えを全体で取り

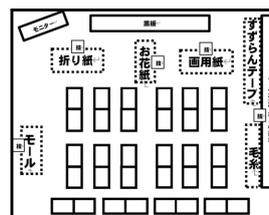


【くふうめがねの一部】

上げて、具体的にどのように工夫をすればよいか考えられるようにする。支今日試したいことが決まっていな子供に対して、「くふうめがね」や技の掲示のどれを試すか一緒に考え、見通しをもてるようにする。また、学習支援アプリの使い方に慣れていない子供に対して使い方を教示する。

～行 動～ **学習活動3**

教室には、形や色といった視点や、解決方法の見通しをもつ際に活用した「くふうめがね」、本時まで友達が行っていた表し方の技の例を掲示しておき、どのように工夫して表せばよいか思い浮かばないときにいつでも見られるようにする。材料コーナーは子供たちの机を囲むように配置し、材料を取りに行く際に、友達の工夫が自然に目に入るようにしたり、イメージが違う子供同士を近くの席に配置することで自分とは違う工夫に気付きやすくしたりし、交流したい気持ちを喚起する。また、題材を通して、困ったときや自分の作品について見たり聞いたりしてほしいときはいつでも友達と交流してよいことを共有しており、子供たちが必要性を感じたときに聞きたい相手と交流できるようにしている。その際、学習支援アプリのカードを常に机上で表示しておくことで相手のイメージを可視化し、それに合った工夫に気付いて声を掛けたり、自分の作品に生かしたりできるようにする。さらに、教師は、イメージに合う工夫をしている子供を価値付けて全体に広げたり、豊かに工夫している子供と活動が止まっている子供をつなぐ声掛けをしたりし、自分の作品づくりに没頭している子供も、交流するきっかけをもてるようにする。支活動が止まっている子供に対して、個別に友達との交流や掲示物を見ることを促したり、したいことを一緒に考えたりする。また、したいことはあるが技能面で困っている子供に対して、やり方を教示する。



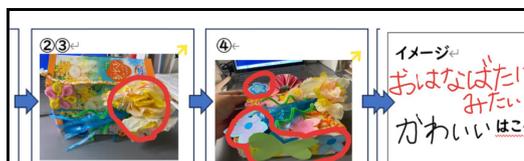
【教室配置図】



【技の掲示の例】

～振り返り・見通し～ **学習活動4**

「今日頑張ったことを振り返る時、前の時間は何をしたかな」と問いかけることで、箱の写真を取り、「変身ポイント」を見付けるという方法を想起できるようにする。また、形や色という視点や写真に丸を付けるという手順を確認する。「変身ポイント」は、ペアの友達と交流しながら見付ける。相手の工夫で「イメージに合っていていいな」と感じたところを伝えたり、どうしてその形や色にしたか聞いてみるとよいことを共有する。交流する際は、変わってきた箱の写真とイメージを書いたカードを見せながら交流することで、友達がどんなイメージで作り、それに合わせてどんな工夫をしたのかが伝わりやすくなる。その後、全体で数名の「変身ポイント」を紹介し、自分たちの学びを捉えたり方法を使うよさを実感したりできるようにする。最後に、教師が次はどうしたいか問いかけることで次時への見通しをもてるようにする。支「変身ポイント」を見付けられていない子供に対して、その子がどんな工夫をしていたか伝えるなどして一緒に考える。また、写真を撮るなど、学習支援アプリの操作に慣れていない子供と一緒に操作する。



【写真を蓄積するシートの一部】